

2019/09/01

「ベテスダの池」

「その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があって、五つの回廊がついていた。その中に大ぜいの病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが伏せっていた。そこに、三十八年もの間、病気にかかっている人がいた。

イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。」(ヨハネ 5:1-9)

当時、ベテスダの池には、主の御使いが時々降りてきて池の水をかき回し、その時最初に池に入った者の病はいやされるという伝説がありました。そのため、池の周りには多くの病人が集まっていました。ベテスダの池は、病の人の最後の希望の場所だったので。

ここに38年もの間、病に臥せっている人がいました。一人での歩行が困難とありますから、介助が必要な状態だったことがわかります。イエス様はこの人に「よくなりたいか」と尋ねました。このギリシャ語には、「精神が健康になりたいか」という意味が含まれます。なぜイエス様はこのように聞いたのでしょうか。それは、本当の病とは、からだではなく精神が病んでいることであると、イエス様は知っておられたからです。精神が病んでしまうと、人と比べて自分を否定的に思ったり、将来に対して悲観的に思ったり、不安を抱いたりします。これが本当の病気なのです。

「よくなりたいか」というイエス様の問いに対して、彼は、「よくなりたい」とは答えませんでした。「私には誰も助けてくれる人がいない」と答えたのです。それは、自分の本当の苦しみは、体が言うことをきかないことではなく、孤独だという彼の訴えです。そして、もう一つ、行こうとしても他の人に負けてしまう……すなわち、人と比較して負けてしまうことも彼の苦しみでした。比較と孤独……私たちの精神の苦しみはこの2点に集約されるのです。

イエス様は、この苦しみを自分の前に差し出してきた彼を、抱きかかえて助けようとはなさいませんでした。ただ言葉で回答なさったのです。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」

私たちの訴えに対しても、神は往々にして同じように答えられます。神様はご自身で人や状況を動かすのではなく、多くの場合、御言葉を通して答えてくださるのです。それは、状況が良くなることが平安のカギではなく、精神がいやされることが大切だからです。精神がいやされるためには、私たちが神のことばを信じるが必要なのです。イエス様のことばを聞いたこの人はすぐにいやされ、立ち上がって歩き始めました。それは、彼がイエス様のことばを信じたことを表しています。彼は、神のことばを信じたからいやされたのです。この出来事を通して、次のことを学びましょう。

1. この人は自分だ

この話を読む時、多くの人は、これは病人の話であって、健康な自分にはあてはまらないと思ってしまいます。しかし、彼の苦しみは、自分と人を比較してしまうことと、自分を助けてくれる人がいないという孤独です。イエス様はこの病気をいやされたのです。あなたは人と自分を比べてダメだと落ち込むことはないでしょうか。誰も私をわかってくれない、愛されるはずがないと孤独を感じることはないでしょうか。私たちは皆病気です。自分は健康だから関係ないと思えるのではなく、ここで苦しんでいるのは、私の姿だと気づくことができれば幸いです。

彼は人生のほとんどを病気で苦しみ、精神が病み、「どうせ自分は孤独だ。」「自信がない。」「本当の自分を誰もわかってくれない。」という苦しみを抱えて生きています。あなたも同じ苦しみを抱えてはいないでしょうか。イエス様はあなたをいやしたいと願っておられます。

2. 神のことばを食べよ

この病人がよくなったのは、イエス様のことばを信じたからです。私たちにとってのいやしとは、神のことばを信じることです。神のことばを信じると、こんな自分でも神に愛されていると気づきます。それがいやしにつながるのです。人は、自分など愛されていないと思うことに苦しみを覚えるので、神の愛に気づくとその苦しみがいやされます。神様は私たちがその愛に気づくことができるよう、様々なことばを語っておられます。そのことばを信じると、彼のようにいやされ立ち上がることができるようになるのです。「こんな自分でも愛されている。」「自分はダメなものではない。」そのことを知るために、積極的に神のことばを食べましょう。

誰もが自分は孤独だと思っています。しかし、神はご自分の一部で人を造り、あなたの中に神が生きておられるのです。どんな時もあなたは一人ではありません。神が共におられます。神のことばを信じると、そのことばが生きて働き、自分の中におられる神に目が向くようになり、いやされます。神のことばを信じて食べる時、それはあなたの力になります。

3. 神は見捨てない

人にとっていちばんのつらさは、孤独です。38年の間、誰にも助けようとされなかった病人の孤独はどれほどのものだったのでしょうか。彼は、病の苦しみ以上に孤独の苦しみを感じ、絶望の淵に生きていました。しかし、実は彼は一人ではありませんでした。神が彼と共におられたのです。そのことに気づいた時、彼に希望の光が見えました。

神様は私たちの希望の光です。神様は常に共におられるのですが、この世の多くの光の中で暮らしている私たちには、他の光と混ざってしまって、その光が見えないでいます。しかし、困難な出来事に出会って、この世の光が一つずつ消えていく時、それでもなお輝き続けている希望の光に気づきます。自分を支えてくれるこの世の光がなくなった暗闇の時こそ、真の光がわかるようになるのです。

人生がどん底の時、私達は言いようもない孤独を感じるものです。しかし、その時、神が共におられることに気づくなら幸いです。神は常に共におられたのですが、人から慰めを得

られるときにはなかなかそのことに気がつきません。しかし、本当の孤独に陥った時こそ、真の光を見ることができるのです。彼が望んでいたことはいつも失敗して、38年間うまくいきませんでした。しかし、神は彼を助けたいと願い続けていたのです。それは、彼が神のからだの一部だからです。

あなたは神のからだの一部で造られ、神があなたを背負っておられます。神様は自分のからだの一部を見捨てようがないのです。ですから、あなたがあきらめても、神様はあきらめておられません。もしあなたが絶望を感じているのなら、今もう一度祈り始めましょう。